

高校講座

難民問題と日本の取り組みについて

11月18日(水)苫前商業高校(金濱茂校長)において高校講座が開催された。この講座は平成7年度より外務省主催で職員を講師として派遣、外交現場での体験談などの講演を行い、外交や国際問題への理解と問題意識の高揚を図ることを目的で行われ、道内では札幌東高校と苫前商業高校の2校のみの貴重な講演会である。

講師は、赤平市出身で外交政策調整官の亀田和明さん。講演はサラエボ、ウガンダなどの紛争が多い国における勤務経験から、難民の状況や支援についての話を中心に行われた。難民には紛争や天災などで自分の国にいないことができない人や人種の違いによる思想や宗教の違いからの迫害で、国内でも自分の住所を追われた国内避難民など日本では考えられない現状が話され、生徒も真剣に耳を傾けていた。

終わりにには生徒から「日本における難民への支援はどのようなことが行われているか」の質問にも丁寧に答えていただき、貴重な話を聞くことができたようだ。



子どもの夢奪っていませんか? ~ふるさと教育セミナー・町P連研修会~



11月18日(水)公民館においてふるさと教育セミナーと町PTA連合会研修会が開催され、町内のPTA、各団体関係者、一般住民など約100名の参加があった。

講師は、赤平市で株式会社植松電機を営む専務取締役の植松努さん。父親との2人で行ってきたモーター修理業、自動車電装品修理業などを経て、産業廃棄物処理で使用するショベル用のマグネット開発に成功。分別用電磁石の全国シェア8割を誇る企業として現在は20名の従業員を抱えるまで成長した。現在は本業と共にロケット開発を行うカムイスペースワークスの代表取締役として活躍されている。

自分が進路選択の際、先生から言われた「どうせ無理」をこの世から無くしたいとの思いをきっかけに、ホームセンターで売っている材料でも飛ばすことができる低コストのロケットを開発した。この経験から純粋な子ども達の夢を、親が「どうせ無理」「できるわけがない」などの何気ない言葉によりあきらめ方を教えていると指摘。子どもとの関わりでは「子どもの好きを奪わないで」「失敗してもあきらめないように支えてほしい」「各家庭でゲームより楽しいことを子ども達に示す努力が必要」などのたくさんのアドバイスが出された。

最後に、植松さんの夢は「住むためのコストを1/10に、食うためのコストを1/2に、学ぶためのコストを0に」を目指しているという。この新たなまちづくりの試みとして、自分の会社の敷地にモデル地区をつくり、大学や電気自動車の実験コースを整備するなどの実践をすでに一部始めている。

不況が続く現在で夢を語ることも少ない世の中であるが、これからの子どもと接していく上での貴重な話を聴くことができ有意義な時間であった。

苫前商業高等学校体験発表会

例年開催されている苫前商業高等学校体験発表会が11月21日(土)公民館で開催された。これは生徒自らが物事を主体的に考え表現する力を育成するとともに、地域の方々に教育活動に対する理解を深めることなどを目的に開催されている。今回は、1年生がインフルエンザの感染による学級閉鎖のため発表はなかったが、2年生の職場実習と見学旅行、生徒会執行部のボランティア活動、課題研究班の特産物を使った給食メニューの開発と商品開発の発表などが行われた。



中でも商業部は、本町の知名度向上と特産物のPRとして東急百貨店での農産物販売会ととままえバザールの研究発表が行われ、試験販売での成果や課題について地元生産者にプレゼンやお客様からのアンケートを2回目の農産物販売に活かしたこと、さらにとままえバザールにおける成果と課題について発表されるとともに、今後の展開としてインターネットによる商品販売についての説明も行われた。

きんろうかんしゃの日 ~とままえほいくえんじによるしょくばいもん~

苫前保育園(青木久美子園長)の藤組(年長)11人が勤労感謝の日の翌日となる11月24日(火)に役場を訪問した。すでに18日には苫前駐在所、20日には消防、郵便局、漁協、留萌信金苫前支店も慰問を行っている。

この日は、園児を代表して加賀谷柊次くんが「いつもまちのひとのためにしごとをさせていただきありがとうございます」と感謝の言葉をつづった手紙を読んだあと、横野瑞希ちゃんが森町長へ花束を贈った。

森町長は「インフルエンザなどがはやってますが、みなさんはもうすぐ新1年生になるので、元気に楽しく過ごしてください。」と述べ、園児たちに画用紙をプレゼントした。



ハッスルプレー続出！～第18回苫前郵便局長杯ミニバレー大会～

11月22日(日)第18回目となる苫前郵便局長杯ミニバレー大会がスポーツセンターで開催、20チーム約100名が集まり熱戦を繰り広げた。ミニバレーは、4人1組という少人数でもできる競技として本町でも実施されており、本大会主催の苫前ミニバレー愛好会(旭香子会長)では例会として苫前中学校体育館で火・金曜日の週2回実施している。

今回の大会は20チームということで、予選リーグとして2ブロックに分け10チームずつによる総当たりで行われ、両ブロックの予選上位5チームずつが決勝トーナメント1部に、予選下位5チームずつが決勝トーナメント2部として、それぞれ1部と2部で優勝を競い合った。

白熱した試合が展開され、ハッスルプレーや珍プレーが続出。互いの交流を深めた。

1部結果

優勝：チーム野村
第2位：光組
第3位：ホワイトエナメルズB

2部結果

優勝：金子はまだかあ？
第2位：チーム誠
第3位：朱蓮会(たぬきさん)



人権について考えよう ～両小学校で人権教室～

人権啓発活動活性化事業の一環として11月25日(水)古丹別小学校、11月30日(月)苫前小学校において人権教室が開催された。

冒頭で人権の花運動への協力に対する感謝状贈呈と人権啓発のための図書贈呈式が行われたあと、古丹別小学校では増毛町人権擁護委員の山下惇さんが、苫前小学校では本町人権擁護委員の村田正夫さんが講師として訪れ、人権に関するDVDを視聴した後、そのDVDを見てそれぞれが思ったこと、考えたことを発表した。児童からは「違いを認めて、その人との間に壁をつくらない」「相手の立場になって考えて行動する」などの気づきが多く出された。

人権擁護委員からは、意地悪などをされて困ったときは、「自分で解決できるのが一番だが、できないときは親や先生などに相談したり、SOSミニレターや電話でも相談してほしい」と述べた。



学校図書室の充実に向けて ～学校図書室活性化研修会～



11月26日(木)古丹別中学校図書室において学校図書室活性化研修会が開催された。これは教育委員による学校視察を行った際、学校図書室における読書環境が不十分だったことから、公民館図書室と連携し、今回の研修会が初めて実現した。

講師は、北海道立図書館市町村支援課の鈴木浩一課長と奉仕課の伊藤嘉奈子主任の二人による「学校図書館を変えよう～公立図書館と学校図書館の連携から～」と題して講話が行われた。この中では、学校図書室の役割や課題、利用しやすくするために道内で実施されている試みの事例など紹介した後、図書室をリニューアルするためのポイントや本の除籍についての説明が行われた。

体育協会・スポーツ少年団合同研修会

11月26日(木)公民館において体育協会・スポーツ少年団本部(野澤圭輔本部長)合同研修会が約25名の参加で行われた。講師は稚内市温水プール水夢館インストラクターの門間奈月さん。



「スポーツ選手のウォーミングアップとクールダウン」と題した講話では、ウォーミングアップは体温、筋温を上昇させ、血液循環の活発化や自身の体調を把握するために、そしてクールダウンは疲労回復や筋肉痛の軽減などのため重要と述べていた。また、合間には「楽らく体操」として上半身のほぐし、足首・足裏・足指のほぐし、風船を使ったトレーニングなどの実技も行われ、参加者は自身の体験によりそれらの重要性を確認するとともに、講師に質問するなどして理解を深めていた。

住民公開講座「もしも血糖値が高いといわれたら」

12月3日(木)苫前厚生クリニックで第2回目となる住民公開講座「もしも血糖値が高いといわれたら」が福井実院長自ら講師となり開催された。

主に、食事療法・運動療法・薬物療法や低血糖で起こる症状について説明された。当クリニックに受診される糖尿病患者のほとんどが薬の処方を見守る方が多いが、まず食事療法や運動療法などの生活習慣を見直すことが原則で、その効果が不十分の場合に薬を処方するのが本来の治療の順序であるとのこと。食事では体重により摂取エネルギー量も変わってくることや、運動も問題ないかの診断後、30分程度続けられるものとしてウォーキングが一番適していると説明があった。さらに、低血糖は、薬の飲み方や量、食事や運動の量、時間などを勝手に変えないことや薬の中にも一緒に飲むと低血糖を起こすものもあるため、別な薬を飲む際は糖尿病の薬を飲んでいることを伝えるよう話していた。



第29回苫前町読書感想文コンクール表彰式

部門	区分	学校	学年	氏名
小学1年生	最優秀賞	苫小	1年	高田 佳歩
	優秀賞	苫小	1年	小笠原 瑠菜
	優秀賞	苫小	1年	石井 しずく
	佳作	古小	1年	工藤 千翔星
	佳作	苫小	1年	杉本 大佑
小学2年生	最優秀賞	古小	2年	伊藤 芽々
	優秀賞	苫小	2年	清水 将
	優秀賞	苫小	2年	坂川 晃寛
	佳作	古小	2年	横内 豪
	佳作	古小	2年	秋山 百知
小学3・4年生	最優秀賞	古小	4年	本田 愛珠
	優秀賞	古小	4年	松浦 美垂
	優秀賞	古小	4年	松浦 美垂
	佳作	古小	3年	齊藤 ななみ
	佳作	古小	3年	松浦 美垂
小学5・6年生	最優秀賞	古小	6年	齊藤 ななみ
	優秀賞	古小	5年	金子 真彩
	優秀賞	古小	5年	永井 星奈
	佳作	古小	6年	旭 一向
	佳作	古小	6年	久保 杏奈
中学生	最優秀賞	苫中	2年	川村 茉以
	優秀賞	古中	3年	白府 佳歩
	優秀賞	苫中	2年	吉田 楓
	佳作	古中	2年	坂川 さゆみ
	佳作	古中	2年	後藤 彩華
高校生	最優秀賞	古中	2年	前川 優斗
	優秀賞	古中	3年	後藤 大輝
	優秀賞	苫商	3年	村中 有沙
	佳作	苫商	3年	大橋 恵里奈
	佳作	苫商	3年	瀨波 えりか

12月5日(土)に公民館で第29回目となる読書感想文コンクール表彰式が開催された。

コンクールには、町内の小学生から高校生まで66名の応募があり、審査の結果各部門ごとに最優秀賞から佳作まであわせて41点が入選した。

この日は、1年生の部から高校生の部の6部門に入選した22名が伊藤通康教育長から賞状と入選作品集を受け取ったのち、各部門の最優秀賞作品の朗読が行われた。

審査委員長の講評では「自分の経験や体験が盛り込まれているものもあり、すばらしい感想文が多かった。読書は心を大きくします。これからも読書を続けてほしい」と述べた。

学力向上の基礎基本となる読書活動の推進が必要とされているが、本町では学校の取り組みで読書タイムの導入するところ、公民館図書室との連携による学校図書入れ替えや学校図書室活性化に向けた研修会の実施、そして公民館図書室による移動図書室や様々な図書事業の実施をしているなど、子どもの読書環境の充実に向けた様々な取り組みが行われている。



文化協会・体育協会表彰と交流の集い

文化協会と体育協会が毎年開催している表彰と交流の集いが12月4日(金)とままえ温泉ふわっとで開催され、文化・体育の振興と発展に寄与された方々を表彰するとともに、文化団体と体育団体の交流と親睦を図った。



本年は、文化協会では1個人・2団体、体育協会では3個人に賞状が手渡された。謝辞として文化功労賞を受賞した川森光治さんからは「この度の表彰を受けることができ大変光栄に思う。今後も更に精進していきたい」と述べた。

この後アトラクションなども行われ、交流の輪を広げるとともに、親睦を深めた。

受賞者は次のとおり。

(敬称略)

文化功労賞 川森 光治 (苫前町くま獅子保存会)

苫前町くま獅子保存会発足当初(昭和48年)からの会員であり、長年にわたり会の発展に寄与している。くま獅子少年団結成(平成9年)と同時に笛吹の指導者として、また、笛吹として地域の祭りにも協力するなどの活動が評価された。

文化振興賞 苫前町陶芸の会

平成5年、団体が結成され今年で15年。学社融合事業において継続して講師を務めるなど、団体活動として目覚ましい活躍が評価された。

文化奨励賞 苫前北斗歌留多クラブ

渡辺 育史、蟻戸 敏央、前田 玲

全日本下の句歌留多岩見沢大会において優勝を納めたことが評価された。



スポーツ功労賞 鳴海 武美 (苫前町パークゴルフ協会)

苫前町パークゴルフ協会(平成18年度以降)及び苫前パークゴルフ愛好会(平成15年度以降)の副会長等を長きにわたり歴任し、活動を通じ愛好者の指導にも熱心に取り組むとともに、協会の活動に尽力されたことが評価された。

スポーツ功労賞 丹羽 知市 (苫前町パークゴルフ協会)

平成9年古丹別パークゴルフ愛好会の設立とともに入会以来、役員として運営に寄与。特にパークゴルフ場管理棟や機械収納庫等の小破修繕、またコース内の清掃、整備など自ら進んで行うなどの功績が評価された。

特別賞 川村 彰 (羽幌高校ラグビー部)

羽幌高校ラグビー部所属の3年生で、長野県で開催された「KOBELCOカップ2009」第5回全国高校合同チームラグビー大会に北海道代表として出場、活躍したことが評価された。

自分の体力はどのくらい? ~町民体カテスト会~



12月6日(日)スポーツセンターにおいて町民体カテスト会が実施され、町内スポーツ少年団員や一般町民約60名が集まり、現在の体力状況を確認した。

この日行われたのは、俊敏性を見るための時間往復走、瞬発力を見るための立ち幅跳び、筋持久力を見るための上体起こし(腹筋)、筋力を見るための腕立て伏せ、そして心肺持久力を見るための5分間走の5種目。

参加者は、4つのグループに分かれそれぞれの種目をこなしていたが、少年団員は普段の練習の成果がでている団員も見られたが、一般住民の中にはちょっとムリしている人もチラホラと。

テスト会の後には、交流プログラムとして北海道キンボール連盟理事で士別市の教員でもある小島紀行さんが講師を務め、「キンボール」というニュースポーツを体験、異世代間の交流を図った。

学社融合事業

「稲作発表会」

春から秋にかけて実施された苫前・古丹別小学校5年生による学社融合事業稲作体験の総括として両校にて稲作発表会が開催され、米について調べた成果やアンケート調査の考察などについて発表を行った。



古丹別小学校の発表会は12月7日(月)に実施、5年生が8グループに分かれ、「米の種類」「米の成分」「世界の米」など様々な方向から調べた結果を紙芝居や人形劇、クイズ形式などの様々な方法で発表、成分の違いやおいしさの秘密、米の種類に応じた調理方法など細かく調べられていた。

一方、苫前小学校の発表会は12月11日(金)に実施。3班に分かれたグループから「コンバインと米の種類」「変わっていく米作り」「昔の米の生産量」などの

発表の他、料理コンテストとして各班で1品ずつ試作したものを試食してもらうなどの試みも行われた。圃場の提供と稲作の指導を1年間行った花井秀昭さんは、スライドを見ながら稲作を振り返るとともに、児童からの質問にも丁寧でわかりやすく答えていた。

最後に児童が刈り取りを行った稲から精米した10kg入りのお米3袋を贈呈し、稲作の学習を締めくくった。贈呈されたお米については、この後に実施される調理実習で使われ児童の口に入るとのこと。



インスタントシニア体験

12月10日(木)苫前中学校(半澤豊秀校長)において3年生9名がインスタントシニア体験を行った。インスタントシニア体験とは、高齢者が日常的に直面する困難を人為的に造りだしたもので、白内障や視野が狭くなるゴーグルや両肘・両膝が曲がりにくくなるサポーター、聴力が減退するような耳栓、筋力の減少のための両手足へのおもりなどをつけるもの。

3年生の生徒は、階段の上り下り、トイレへの出入り、積雪状態の横断歩道の歩行などを体験。口々に「見えづらい」「膝がまがらない」「動きづらい」などの言葉が発せられていた。

一通り体験した後、教室に戻り自分が体験した感想を振り返ることで、改めて年を重ねることによる体の衰えについて考えることができたようだ。



+ Dr.小野の処方せん

アルコール性肝障害

アルコール及びその代謝によって生じる過剰の補酵素(NADH)による代謝異常と代謝産のアセトアルデヒドの肝毒性により発生する肝硬変。

アルコールは主として小腸において速やかに吸収され、90%以上がほぼ一定速度で肝臓において代謝される。正常、人におけるアルコール代謝は成人で1時間6g前後である。日本酒1合はアルコール20~25g相当でビール大びん1本、ウイスキーまたはブランデーはダブル1杯、ワインは、グラス2杯分に相当する。しかし、慢性飲酒により代謝的順応が生じると1時間10gまで代謝機能が上がる。慢性飲酒により発生する臓器障害は多彩で肝障害以外に、大脳萎縮、小脳変性、食道がん、腎炎、膵炎、糖尿病、心筋症、高脂血症、貧血、末梢神経炎などがある。肝障害は脂肪肝肝炎、肝線維症、肝硬変と進展する。断酒により改善するが、依存症から脱却することが難しく、本人の自覚とメンタルケアが重要である。



医療法人社団 オロロン会
苫前クリニック
理事長 小野 哲郎
☎ 64-9070

食と健康を考える女性の集い

人生を豊かなものにするために、まずは健康であることが何よりも大切。この集いでは、生活に身近な「食べる」ことにスポットをあて、健康でおいしい人生を送る知恵と工夫を学びます。お気軽にご参加ください。

○と き：1月24日（日）10:00～15:00

○ところ：苫前町公民館

○対象者：どなたでも参加可（男性も歓迎）

○参加料：無料

○参加申込み期限

：1月15日（金）まで

当日のプログラム

① 貴田シェフの講演

② 貴田シェフ監修メニューの料理実習

② 門間トレーナーの健康づくり運動

③ 貴田シェフ監修メニューを全員で試食

※②はどちらかを選択

●無料送迎バスが出ます。

往路 苫前町福祉センター（9:40）～ 苫前町公民館（9:50）

復路 苫前町公民館（15:10）～ 苫前町福祉センター（15:20）



とままえ町民劇 ～1939・インディギルカ号～

町民有志によって制作された町民参加型演劇。脚本は実際にあったロシア船インディギルカ号の遭難事故をもとにしたもので浜の町を舞台とした物語です。経験者も未経験者も一つになって舞台を盛り上げますのでその成果を是非ご覧ください。

○日 時 1月23日（土）18:30（開場は30分前）

○場 所 苫前町公民館講堂

○入場料 無料

町民参加型スポーツイベント「ちょこっと!ちょこっと!!」

みんなで仲良く心地よい汗を流しにスポーツセンターへ遊びにきませんか!?

苫前町スポーツセンターでは、今年も全世代を対象とした町民参加型スポーツイベントを毎月第4日曜日に実施します。

日頃の運動不足解消をしたい方やニュースポーツを体験したい方は、老若男女問わずみなさんお誘い合わせのうえ、是非スポーツセンターまで。

日時：1月25日（月）18:30～20:30 場所：苫前町スポーツセンター 参加料：無料

第18回北海道凧あげ大会 第37回苫前町凧あげ大会

大会当日は各種イベントや地場産品などの出店コーナーも予定しております。みなさんお誘い合わせのうえご来場下さい。

○と き：2月28日（日）

○ところ：とままえ温泉ふわっと

※その他、詳細が決まりましたら回覧等でお知らせいたします。



～あなたの学びたいを応援します～

苫前町公民館

電話 65-4076 FAX 65-3220

e-mail shakaikyoiku@town.tomamae.lg.jp

大切な医療費を有効に使いましょう！

増え続ける医療費

近年における医療費は、人口構造の急激な変化による高齢化とともに、成人病などの長期治療を要する慢性疾患の増加や医療技術の高度化が主要因となり、年々増え続けています。

苫前町においても、国保加入者1人当たりの年間総医療費の額が、平成20年度では約33万円にものぼり、今後も増加することが予想されます。

医療費の抑制のために

このように、急激に増加する医療費を払うための財源は、国などからの負担金のほか国保加入者のみなさんから納めていただく保険税で、大半を補っています。したがって、**医療費が増加することは結果的に保険税の引き上げなど、みなさんの負担増へとつながります。**

特に本町の場合、同じ病院で複数の病院を受診する『重複受診者』が全加入者の2.1%を占める（全道平均1.13%、留萌管内1.32%）など、高い比率となっています。

このような医療費の無駄遣いをなくすため「かかりつけ医」をもち、定期的な健康診断の受診による疾病の早期発見・早期治療につとめるなど、医療費の有効活用に心がけ、今後とも医療費の抑制にご協力下さい。

保険税を納めましょう！

国保の保険税は、加入者みなさんの医療費の給付などの費用に充当され、国などからの負担金とともに国保の貴重な財源として、全体の約4割を占めています。皆さんが医療費の一部を負担するだけで医療費が受けられるのも、国保の健全な運営が確保されているからです。

しかし、医療費の増嵩（そうすう）や保険料の未納によって、国保財政は非常に不安定な状況となっています。国保財政が健全に運営され、皆さんが安心して医療を受けられるよう保険税の納付推進にご協力ください。

介護保険・福祉 Q&A 介護保険で利用できるサービス（福祉用具購入）

Q 福祉用具を購入した時点で保険給付を受けることができますか？

A 福祉用具を購入した場合の費用は、保険で給付される分も含めていったん全額を自分で支払います。その後、必要な書類を添えて申請すると、保険給付分（9割）が後から指定した金融機関の口座に振り込まれる仕組みになっています。

福祉用具は日常生活を送るうえで大変重要な道具であるとともに、利用の有無はもちろんのこと、使い勝手や装着感等の違いによって、生活の質や満足度が様変わりします。

「介護保険の福祉用具を利用したい」とお考えの方は、まずケアマネージャーに相談してから選ぶようにすると良いでしょう。

代表的な福祉用具のチェックポイントについては、次の事項があげられます。

●つえ

ひじを曲げ、腕を地面と平行にしてから、30度下げたところに、杖のグリップがくるくらいがちょうどよい高さです。

●ポータブルトイレ

ベッドからの移乗がしやすいものを選びます。



●車いす

きちんと座れているか、無理なく乗り降りできるかなどをよく見て選びます。



お問い合わせ 苫前町町民課しあわせ係 0164-64-2215（内線226・227）まで

国民年金



◎新成人の皆さん 忘れずに国民年金の 加入手続きをしましょう

国民年金は、老後の所得保障だけでなく、病気やケガで重い障害が残ったりしたときなどにも年金を支給し、思いがけない人生の「万が一」もサポートする公的年金制度で、国が責任を持って運営しています。

◎義務と権利

日本国内にお住まいの二〇歳から六〇歳までのすべての方は、国民年金に加入して保険料を納付する義務があり、年金を受け取る権利があります。

◎加入の手続き

学生や自営業者などの第一号被保険者となる方は、お住まいの市区町村役場で直接、手続きをしてください。

サラリーマンや公務員の第二号被保険者の方やその第二号被保険者に扶養される配偶者の第三号被保険者の方は、勤務先の事業所が加入手続きを行いますので、個別の手続きは必要ありません。

◎保険料の猶予・免除

学生であること、収入が少ないために国民年金保険料の納付ができない場合は、申請により保険料の納付が猶予・免除となる制度があります。

この申請を行わないまま、国民年金保険料が未納となっていると、「万が一」のときに障害年金が受け取れないなどの思わぬ事態を招きますので、ご注意ください。

「学生特例制度」は、所得がない学生の方ご本人の申請により保険料の納付が猶予される制度です。年金を受け取ることができなくなることや、不慮の事故等により障害が残ってしまった場合に障害基礎年金を受けることができなくなることを防止するための制度です。

その他に、経済的な理由等により保険料の納付が困難な方のために、「保険料免除制度」や「若年者納付猶予制度」があります。

申請手続きなど詳しくは、町民課住民係、古丹別支所または留萌年金事務所（旧留萌社会保険事務所）にお問い合わせください。

平成22年4月1日から支庁が変わります「総合振興局」・「振興局」がスタートします！

全道14支庁は、北海道のこれからの地域づくりを担う総合出先機関として新たな第一歩を踏み出します。今後も市町村と連携協力し、地域の課題に対応するとともに、より広域的な観点に立った効果的な地域振興、産業振興に取り組みます。

【留萌支庁管内の関係するところのみ記載】

①名称が変わります（所在地は変わりません）

現在の名称：留萌支庁 → 新しい名称：留萌振興局

現在の名称：上川支庁 → 新しい名称：上川総合振興局

②2町を所管する機関が変わります。

幌延町は、宗谷総合振興局の所管となります。（現在は留萌支庁の所管）

支庁制度改革の取り組みについて、詳しくは道のホームページ（<http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/cks/shichou/shichoutop.htm>）をご覧ください。

お問い合わせ先

道庁総合政策部

地域主権局

(☎011-204-5159)

各支庁参事(地域調整)

(☎0164-42-8106)

「文芸」

(短歌)

「友愛は」馴染めぬ文字の綴りなり萩の一枝終まりてくる
幸便が舞ひ来し胸に押し抱くことのありしや生きてぬし幸

凍雪を軋ませながら行き交うも仕事始めの夢を抱きつつ
信号も一つ二つの過疎の街老ひし記憶を辿りて歩む

利尻富士海を隔てて初春を寿ぐ空に鳶旋回す
ゆつくりと濃ゆき緑茶を飲まれいし悦舟先生惚ぼるる宵

雪間せし庭の隅なる福寿革命小さく耀きて咲く
眼底の涙の数を拾ひみて生の証の添削つづく

(俳句)

降る雪を 帽子で受けて 登校す
下校する 子等のさざめき 霰降る

九十九路に 向かふ峠の 雪時雨
生きてゆく 涙の声か 虎落笛

(文責・大矢根)

(川柳)

外出も 杖を頼りの 雪の道
読み書きは 老眼掛けて 辞書抱え

温暖化 懐具合 低温下
ふる星の お米今年も 食べる幸
譲られて 我が身の歳を 知った席

(文責・鎌田)

札幌市 住吉 美恵

古丹別 木幡とく子

札幌市 横内 弘子

古丹別 大矢根亮子

古丹別 林 千代美

古丹別 桑 風

古丹別 桑 風

古丹別 運上 吉雄

古丹別 小島 信子

古丹別 斎数 範章

古丹別 関 信夫

ファイヤー通信

大切な住まいと家族を守るものは
日々の用心と備えから

年末年始は何かと忙しく、ちょっとした気の緩みや火気の取扱不注意による火災発生が予想される時期です。下記のこと十分に注意し、火災のない明るい町づくりにご協力下さい。

ストーブの近くに燃えやすい物を置かないようにしましょう



放火を防ぐために、家の周囲に燃えやすい物を置かないようにしましょう。

ガスコンロに火をつけたまま離れないようにしましょう。



火事・救急は119番!

北留萌消防組合消防署 苫前支署 ☎64-2321
古丹別支署 ☎65-4119

確定申告について - 相談及び申告書受付は2月16日(火)～3月15日(月) -

確定申告が必要な方

次の計算において残額があり、さらに①から⑥のいずれかに該当する方は、所得税の確定申告が必要です。

計算式

各種所得の合計額(譲渡所得や山林所得を含む)から、所得控除を差し引いて、「課税される所得金額」を求めます。

「課税される所得金額」に税率を乗じて、「所得税額」を求めます。

「所得税額」から配当控除額と年末調整の際に控除を受けた(特定増改築等)住宅借入等特別控除額を差し引きます。

- ①給与の収入金額が2,000万円を超える
- ②給与を1ヶ所から受けていて、各種の所得金額(給与所得、退職所得を除く)の合計額が20万円を超える
- ③給与を2ヶ所以上から受けていて、年末調整をされなかった給与の収入金額と、各種の所得金額(給与所得、退職所得を除く)の合計額が20万円を超える
※ 給与所得の収入金額の合計額から、所得控除の合計額(雑損控除、医療費控除、寄付金控除及び基礎控除を除く)を差し引いた残りの金額が150万円以下で、さらに各種の所得金額(給与所得、退職所得を除く)の合計額が20万円以下の方は、申告は不要です。
- ④同族会社の役員やその親族の方などで、その同族会社からの給与の他に、貸付金の利子、店舗・工場などの賃借料、機械・器具の使用料などの支払いを受けた
- ⑤給与について、災害減免法により源泉徴収税額の徴収猶予や還付を受けた
- ⑥在日の外国公館に勤務する方や家事使用人の方などで、給与の支払を受ける際に所得税を源泉徴収されないこととなっている

- 税に関する情報は国税庁ホームページへ www.nta.go.jp -

オロロン留萌中部・北部通年雇用促進協議会からのお知らせ 建設オペレーター人材育成に係る技能講習事業受講者募集中

季節労働者の多様な技能取得により、通年雇用化の促進を図ることを目的としています。(季節労働者のみ受講することができます。)

- (1)日 時 平成22年2月2日(火)～2月16日(火)
- (2)会 場 学科会場:羽幌町立中央公民館 3階視聴覚室(羽幌町南6条2丁目)
実技会場:オロロン農業協同組合駐車場(羽幌町南6条2丁目)
- (3)定 員 **各種目10名 受講料・無料 ※定員を上回った場合、抽選となります。**
- (4)技能講習の内容(※取得資格の内容によって、講習時間が変更となります。)

- ①フォークリフト運転技能講習(平成22年2月2日(火)～5日(金):4日間)
- ②車輻系建設機械運転技能講習(平成22年2月6日(土)～7日(日):2日間)
- ③玉掛け技能講習(平成22年2月8日(月)～10日(水):3日間)
- ④小型移動式クレーン運転技能講習(平成22年2月12日(金)～14日(日):3日間)
- ⑤ガス溶接技能講習(平成22年2月15日(月)～16日(火):2日間)

注1) 各種目で一定の定員に満たない場合は、中止になる場合もあります。

注2) なお、本事業の申込期限は、平成22年1月22日(金)です。技能講習事業申込者は、季節労働者向け通年雇用促進セミナーも併せて受講していただくことが参加の条件となります。(セミナーの詳細については下記に問い合わせ願います。)

注3) 各講習では受講資格が必要なものもありますので、詳細は下記に問い合わせ願います。

- ◇お問い合わせ先 オロロン留萌中部・北部通年雇用促進協議会
《事務局》羽幌町役場商工観光課内 電話0164-62-1211(内線362)
《事務所》羽幌町南3条2丁目1番地(相談窓口) 電話0164-62-5060
《その他》各町村役場内の雇用対策担当課まで(苫前町 商工観光係:64-2212)

古丹別保育所園児の作品

『クリスマスリース』

ツリーをかくのが
むずかしかったです。



青組 6才
くどう るいさん



『ヒラメの放流』

ヒラメがうまくか
けました。



青組 5才
しみず ねねさん



『おゆうぎ会の絵』

たのしそうにおど
るところがかけま
した。



青組 6才
のむら みゆさん



『クリスマス』

ツリーをおるのが
たいへんでした。



桃組 5才
つきがたかひろくん



『かわいい
きくひめちゃま』

かみかざりがじょ
うずにかけました。



桃組 5才
つちだ れいなさん



『ゆきだるま』



黄組 4才
ごとう やまとくん



かみをまるめ
るのがむずか
しかったです。

『ゆきだるま』



黄組 4才
のむら れなさん



シールをはる
のがたのし
かったです。

『カルタ』



赤組 3才
かとう ゆうきくん



おいしそうな
くだものがか
けました。

『カルタ』



赤組 3才
ひもりてつぺいくん



きばをかくの
がむずかし
かったです。

ちびっこギャラリー

ちびっこギャラリー

ちびっこギャラリー

編集 雑記 帳

十一月に行われたふるさと教育セミナーでの「私たちには夢見る力がある」と題し植松電機 植松努さんの講演では衝撃を受けた。

内容は、大人から発せられる「めんどくさい」「どーせ無理」「できるわけがない」などの言葉。それはピュアなまま生まれきた子ども達の夢や希望だけでなく、「やる気」「知りたい」を奪い、更に「あきらめ方」を教えてしまっていたというもの。

さて、自分の子どもに対してはどのように接していたか考えてみた。やっぱり「どーせ無理」「できるわけがない」などの言葉を発していたように思う。

子ども達の「やりたい」「しりたい」を大事に。失敗したときは「こうしてみたら?」。夢とは大好きなこと。やってみたこと。仕事とは社会の役に立つこと。優しくなれることが夢への近道。

植松さんの講演を聞くことができ、私もまた明日から「がんばれるかな」という気持ちになることができました。そして、これからは子供達に「こうしてみたら」と言えるかな?

何かありましたら広報広聴係
TEL 0164-164-22212
FAX 0164-64-2142
koho@town.tomamae.lg.jp
までメールを下さい。

(Q)